

学校の教育目標

やさしく かしこく たくましく

学ぶ喜びをあげよう子をめざして

～地域・人・自然と関わり、仲間と学びを深める授業を通して～

めざす児童の姿

- A 地域・人・自然と関わり、そこから課題を発見していく子
- B 発見した課題に対して見通しをもち、自ら学び、追究し続けていく子
- C 気付きや疑問を大切にできる子
- D 自分の考えを、仲間との関わり合いの中で深め、広げていく子
- E 思考・気付きの高まりが次の学びにつながる子

児童の実態

自ら学ぶ

3年間の実践を通して学び方を身に付けた子は増えてきたが、自ら課題を見出し追究していこうとする力や自らの学びを自覚したり、生かしたりする姿に弱さを感じる。

児童の実態

仲間とかかわる

事実と考えを分けて考える子が増え、伝え合うこともできるようになってきたが、仲間との学び合いを通して自分の考えを深めたり広げたりする力に弱さを感じる。

- 地域・自然・人・仲間との関わりの中で、自ら課題を発見し、解決に向けて見通しをもって、主体となって学ぶ姿
- 自分の願いや気付き、疑問を常にもち、粘り強く追究し続ける姿
- 自分の学びを振り返り、自分の変容や課題を自覚し、次につないでいく姿 (学ぶ意欲・学び方)
- 学んだことを次の学びや生活、今後の自分につなげていく姿 (学び方・学習内容)

地域
人
自然

- 積極的に仲間と関わり、課題解決に向けて、自分の考えを深めたり広げたりする姿
- 自分と仲間の考えの共通点・相違点を聞き分けて学び合う姿
- これまでの学びや体験と獲得した見方・考え方をもとに、自分の考えを分かりやすく表現する姿
- 仲間と学び合うことのよさを実感したり、仲間を認め合ったりする姿

目指す姿	<生活科> 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、仲間と共に、気付きの質を高め、自らの生活を豊かにしようとする子	<社会科> 社会的事象に主体的に関わり仲間と共に追究し、社会認識を深め、生活につなげる子	<理科> 自然の事物・現象に主体的に関わる中で問題を見出し、仲間と共に追究し、問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を身に付けた子
研究仮説	身近な人々、地域及び自然に自ら働きかけ、仲間と共に、思考や表現を一体的に繰り返し行うことができるような「単元構成」「学習活動」を仕組み、児童の見取りを基に「指導・援助」をすれば、願いを実現し、気付きの質を高め、生活を豊かにしようとする子になる。	社会的事象に主体的に関わり合える教材開発と単元構成をし、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせて、その特色、相互の関連、意味を考え続けることができるような学習過程の構成及び指導・援助をすれば、学んだことを「自分ごと」として表現することができる。	主体的に対象とかかわることによって、自ら問題を見出すことのできる単元構成を工夫し、見通しをもって観察・実験を行う中で、自分の考えをもって仲間と追究することができるような指導・援助をすれば、問題を科学的に解決するための資質・能力を育成することができる。
研究内容Ⅰ ・児童が主体的に学ぶことのできる単元構成・教材の在り方 (驚きのある、つながりのある)	(1)2年間のつながりを意識した年間指導計画の作成 (2)子どもの願いがにつながり、活動が深まる単元構成の工夫	(1)人と関わり合える教材開発 (2)追究意欲が連続する単元構成	(1)単元を貫く課題や追究する必然性のある単元構成の工夫
研究内容Ⅱ ・児童の主体的に学ぶことのできる学習過程、学習活動の在り方 (導入・展開・終末・取り組み方法・場の設定など)	(1)願いを明確にし、見通しをもって活動するための導入の工夫 (2)対象との関わりを深め、気付きの質を高める場の設定	(1)必然性のある課題化の在り方 (2)見通しをもち、自ら考えをもてる学び方 (3)仲間と共に「練り合う」場の設定と工夫	(1)問題を見出すことのできるような事象提示 (2)見通しをもって観察や実験を行うことができるための工夫 (3)観察や実験の結果からきまりを導き出すことができるための工夫
研究内容Ⅲ ・児童の主体的な学びを支える評価、指導・援助の在り方 (評価…学習後・自己・相互)	(1)児童の見取りを活用し、児童の意識を大切にした指導・援助の工夫 (2)自己評価と相互評価の工夫	(1)個に応じた指導の工夫 (2)振り返りの工夫	(1)問題を解決することができるための指導・援助の工夫 (2)振り返りの工夫

